

平成9年度企画展

秋の収穫展

く昔の脱穀・調整用具く

9月25日(木)く10月26日(日)

宮代町郷土資料館



開催にあたって

秋のそよ風が黄金色に輝く稲穂を揺らし始め、町の田園風景は稲の収穫が始まる時期となりました。この時期になりますと農家の前を通ると稲の脱穀をしたり乾燥をしたりしており、香ばしい匂いと慌ただしい機械の音が聞こえてきます。

機械化される前の稲の脱穀から乾燥など調整する農具は、現在ではほとんど使われていませんが、人の手によって行われ能率を少しでも上げるために、さまざまな工夫をこらした道具を使って行われていました。

宮代町郷土資料館では、町民の皆様から寄贈していただいた民具を約1,200点収蔵しています。これらは人々に大切に使われ、その手のぬくもりが伝わった貴重な資料です。

平成9年度第4回企画展「秋の収穫展～昔の脱穀・調整用具～」は、これら昔を物語る民具の中から、機械化される前の脱穀・調整具等の農具を展示いたします。この展示を通して、郷土宮代の文化への関心や理解を深めていただければ、幸いに存じます。

平成9年9月25日

宮代町郷土資料館

農具について

稲作に使われる農具はつねに改良がなされ、畑作はじめ各種の作業に転用されたりしています。農具には、耕起具、除草具、脱穀・調整具・補助具等の農業をする過程で用途が違うので、さまざまなものがあります。

江戸時代、小農経営の成立とともに農具も分化し、労働生産性は著しく高められました。そして、明治時代を迎えて、欧米農耕技術の導入が試みられたが、大正・昭和の時代に入ってようやく動力農機具が普及しました。

今回の展示物で次に図で示した③と⑥が動力農機具であり手や足で力を加えることにより動いて機能を果たします。

展示物について（今回展示した農具）

①イネカリキ

用途：稲刈りに使用



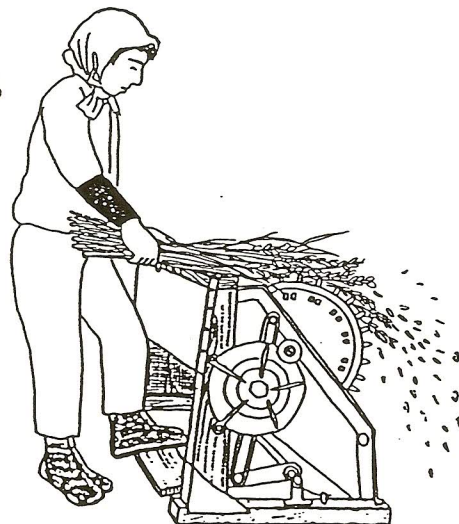
② センバコキ

用途：稲^こ扱きに使用する



③ ガーコン (足踏式脱穀機)

用途：稲^こ扱きに使用する



④ マンゴクドオシ

用途：つき米と糠^{ぬか}をふるい別けたり、
米の選別に使用する



⑤ キネ

用途：^{もみがら} 粳殻を取り去る時に使用する



⑥ トウミ

用途：^{もみ} 粳、米、麦等の善悪を選別する



展示目録

	品 名	寄 贈 者
1	イネカリキ	萩原一丸
2	センバコキ	柳 彰
3	ガーコン	青木千代子
4	マンゴクトオシ	福田政義
〃	改良マンゴクトオシ	青木千代子
5	キネ	加藤あさえ
6	トウミ	井草愛子

引用・参考文献

- 柏書房図録 1991年 民具入門辞典
埼玉県立さきたま資料館 1985年 北武蔵野の農具
河出書房新社 1990年 民具の博物誌

企画展「秋の収穫展～昔の脱穀・調整用具～」

発行年月日 : 平成9年9月25日

編集発行 : 宮代町郷土資料館

〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289

☎0480-34-8882